

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：20105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12463

研究課題名(和文)医療依存度の高い在宅療養者の生活再構築におけるレジリエンスの概念化と看護支援

研究課題名(英文)Resilience of home care patients requiring severe medical treatment

研究代表者

菊地 ひろみ (KIKUCHI, HIROMI)

札幌市立大学・看護学部・教授

研究者番号：80433134

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：レジリエンスの定義と概念分析を行い、M-GTAにより胃ろう造設、気管切開等、特別管理加算() ()の対象となる在宅療養者12名を対象に半構造化インタビューを実施した。「じっくりくる対処を見つける」「過去のつらい体験が糧」「専門家からの承認」など12の概念を生成した。訪問看護のエキスパートに本結果の妥当性についてヒヤリングを行い、概ね妥当との見解を得た。本研究により、在宅療養者が医療的ケアを必要とする状況に陥った後、療養者の内的要因に促進的環境が関与して相補的なプロセスを経てレジリエンスが発現されるとの仮説を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本邦では適当な日本語がなく、多義的に使用されているレジリエンスについて概念分析を行い、M-GTAにより医療依存度の高い在宅療養者のレジリエンスの概念を創出した本研究成果は学術的に意義がある。在宅療養者のレジリエンスに着目した看護研究は極めて少なく、今後、在宅医療を中心とした医療構造への移行が進み、医療依存度の高い療養者の増加が見込まれるなか、在宅療養者を支援するケアモデルの創出は意義がある。

研究成果の概要(英文)：Conceptual analysis of resilience were conducted. Then, using M-GTA, semi-structured interviews were conducted with 12 home care patients who had Percutaneous Endoscopic Gastrostomy(PEG), tracheotomy, etc., and were eligible for special management additions. 12 concepts were generated, including "find a solution that feel better," "feed on past painful experiences", "Approvals from the medical professionals" and others. Finally, a home health care nursing expert was interviewed about the validity of the results of this study, and generally agreed that the results were valid. From this study, hypotheses were obtained that after fall into a situation requiring medical care, resilience is expressed through a complementary process involving the internal factors of home care patients and their facilitating environment.

研究分野：在宅看護

キーワード：在宅看護 訪問看護 在宅療養者 医療ニーズ レジリエンス M-GTA

1. 研究開始当初の背景

在院日数の一層の短縮化や在宅医療機器等の機能向上等により、医学的管理やケアが必要な状況で在宅に移行する患者は増加傾向にある。気管切開や人工呼吸器、胃ろう、ストマといった医療依存度の高い処置について、患者・家族が医療機関で受けた指導を、生活環境や介護体制などに対応させ、自己管理に定着させるまでには多くの生活課題がある。複雑な手技や感染管理、時間ごとの処置、器具や衛生材料の管理など、新たに生活の一部として行わなければならないことは数多い。訪問診療医や訪問看護師といった専門職を自宅に受け入れ、うまく活用することも必要になる。加えて、ボディイメージの損傷や障がいに対する心理精神的な回復を含めて、導入前の日常生活を取り戻すには多くの課題を克服していかなければならない。

レジリエンス (resilience) は、「個人内および環境要因の両者を活用しながら困難な状況に適応する心理的回復力で、ストレス予防の段階で働くのではなく、過大なストレスにより心理的危機状態に陥った場からの立ち直りに作用する心理的機能であり、自己概念やサポート概念を統括した複合的概念」とされる¹⁾。レジリエンスには、スキルとコンピテンス、内的・個人的強さ、促進的環境の3要素が含まれ、個人的特性ではなく誰もが学習可能であり、発展させることができるものであるとされている²⁾。

在宅での医療処置のセルフケア獲得に対する看護支援は、石津³⁾、大竹⁴⁾、湯沢ら⁵⁾、吉野⁶⁾、上道ら⁷⁾など多数の先行研究がある。しかし、これらの先行研究は事例報告が多くを占め、在宅療養者のレジリエンスに着目した研究はわずかである⁸⁾⁹⁾。加えて、大久保ら¹⁰⁾が、「日本の文化に応じたレジリエンスの定義づけ」、「それぞれの研究分野に応じたレジリエンスの定義づけ」が必要と指摘しているように、在宅看護の特性をふまえたレジリエンスの定義づけ、構成概念の抽出が必要な段階にある。

2. 研究の目的

医療依存度の高い処置という生活上の危機状況を受け入れ、医療処置と共にあり生活の安定を再び取り戻している在宅療養者は数多く存在する。本研究は、それらの在宅療養者がもつレジリエンスの要素を明らかにすると共に、医療依存度の高い療養者の在宅生活の再構築に向けて、療養者のレジリエンス促進に働きかける看護支援について仮説を立て、その導入を試みるものである。本研究の意義は、在宅療養者を捉える枠組みと在宅援助を説明するケアモデルの一つを提示する可能性がある。

3. 研究の方法

研究1：国内外の文献検討とレジリエンスの概念分析

- 1) 心理学、教育学、看護学分野におけるレジリエンスを主題とした国内外の文献を収集し、スコーピングレビューを行った。
- 2) レジリエンスの基本的な3要素であるスキルとコンピテンス、内的・個人的強さ、促進的環境について、在宅看護分野の特性から検討し、Rogersの手法により概念分析を行った。

研究2：M-GTAによる医療依存度の高い在宅療養者の生活の再構築におけるレジリエンスの概念創出

- 1) 医療依存度の高い処置を導入して、安定した在宅療養を継続している在宅療養者を対象にインタビュー調査を行った。医療依存度の高い処置は、訪問看護特別管理加算対象の胃チューブ留置、腹膜透析、気管切開・気管カニューレ、PTCD(種々ドレーンなどの留置)、輸液用ポート、を行っている状態とした。在宅療養者自身のレジリエンスを調査項目とするため、自身の状態について表現でき、言語によるコミュニケーションが可能な状態にある方を対象とした。
- 2) 研究協力の訪問看護ステーション管理者から、研究対象の条件に見合う在宅療養者を候補者として紹介してもらい、半構造化インタビューを行った。M-GTA(修正版グラウンデッドアプローチ)に沿って分析を行い、理論的飽和に至るまで調査を継続した。
- 3) 在宅療養者のレジリエンスの要素について仮説を生成し、研究に協力した訪問看護ステーションの管理者と共にメンバーチェックを行った。

研究3：在宅療養者のレジリエンスに着目した看護支援仮説の生成

- 1) 研究対象は、訪問看護ステーション管理者および在宅看護専門看護師ら訪問看護のエキスパートである。エキスパート訪問看護師に本結果の妥当性についてヒヤリングを行った。倫理的配慮：所属大学の研究倫理審査会の承認を受けて実施した。

4. 研究成果

研究 1

看護学分野におけるレジリエンスを主題とした国内文献 28 編、海外文献 26 編を収集しコーピングレビューを行った。続いて Rogers の概念分析の手法に基づき、「属性」「先行要件」「帰結」を抽出した。レジリエンスには適切な日本語がなく多義的に使用されている状況にあることが明らかになった。レジリエンスを主題とする論文を精読し概念分析を行った結果、「重大な危機状況からの回復プロセス」であり「個人の内的強靭さ」「促進的環境」「相補的プロセス」等の概念が抽出された。

研究 2

北海道内で研究者が訪問可能な地域において、特別管理加算（訪問看護利用者のうち、特別な管理が必要な利用者を対象に計画的に管理を行うことで加算）の届け出をしている訪問看護ステーションの管理者から、対象条件に一致する利用者の紹介を受け、半構造化インタビューを実施した。データが飽和化するまでインタビューを継続し、計 12 名に実施した。

対象者は、男性 7 名、女性 5 名。年齢は 30 才～86 才（平均年齢 72.3 才）。在宅療養期間は 7 か月～14 年（平均 3.9 年）。医療処置は、人工肛門（4 名）、尿管皮膚瘻（3 名）、気管カニューレ（2 名）、人工呼吸器装着（2 名）、胃ろう（2 名）、在宅酸素（1 名）、褥瘡（3 名）、導尿留置カテーテル（2 名）等であった。家族構成は、独居（6 名）夫婦のみ（5 名）、配偶者以外の家族と同居（1 名）等であった。住居形態は一軒家（4 名）、集合住宅（8 名）であった。研究 1 で抽出した概念と照合し、「個人の内的強靭さ」では、「時間をかけて生活を落ち着かせる」「一生ストマと付き合う覚悟をする」「自立心」「積極的に生活を楽しむ」「過去の辛い体験が糧」「自分らしさへのこだわり」「神仏への祈り」など、自分らしさの追求や自立への意思の強さを示す概念が生成された。「促進的環境」では、「家族の支え」「同病者との交流」「自立して暮らすための介護サービス」「専門職からの承認」等、周囲の人々との関係性や在宅資源の活用に関するカテゴリが抽出された。「相補的プロセス」では、「処置の方法を繰り返し覚える」「自分に合った対処をみつける」「自分から知識を求める」「周りに自分の意向を伝える手立てを会得する」「在宅サービス提供者をアセスメントする」等、医療処置に習熟し、生活の一部に取り入れることに関するカテゴリが抽出された。

結果

レジリエンスの要素	カテゴリ	カテゴリの特徴
スキルとコンピテンス	処置の方法を繰り返し覚える じっくりくる対処をみつける 自分から知識を求める 周りに自分の意向を伝える手立てを会得する 在宅サービス提供者をアセスメントする	医療処置に習熟し、生活の一部として取り入れることに関するカテゴリ
内的・個人的強さ	時間をかけて生活を落ち着かせる 一生ストマと付き合う覚悟をする 自立心 積極的に生活を楽しむ 過去の辛い体験が糧 自分らしさへのこだわり 神仏への祈り	自分らしさの追求や自立への意思の強さを示すカテゴリ
促進的環境	家族の支え 同病者との交流 自立して暮らすための介護サービス 専門職からの承認	周囲の人々との関係性や在宅療養に必要な資源の活用に関するカテゴリ

研究 3

概念分析とインタビューで得られた結果について、訪問看護ステーション管理者および在宅看護専門看護師ら訪問看護のエキスパートにヒヤリングを行った。結果、レジリエンスの概念、生活の再構築に至るプロセスについて妥当との見解を得た。

引用文献

- 1) 石井京子. レジリエンス研究の展望. 日本保健医療行動科学学会年報, Vol.26, pp179-186. 2011.
- 2) 石井京子. レジリエンスの定義と研究動向. 看護研究, Vol.42, No.1, pp3-14. 2009. 医学書院.
- 3) 石津彩子. 在宅酸素療法を実施している人々の生活管理 療養生活上の取り組みから. Quality Nursing, 7 巻 11 号, pp945-950. 2001.
- 4) 大竹しのぶ. 在宅 ALS 療養者における医療依存度の高い処置導入後の看護の役割. 難病と在宅ケア, 17 巻 4 号. 2011.
- 5) 湯沢八江. 在宅中心静脈栄養療法患者のセルフケアにおける清潔管理の評価. 日本看護学研究学会雑誌, 24 巻 2 号, pp41-50. 2001.
- 6) 吉野歩. 医療的ケアの必要な在宅療養者の家族が行う生活上の取り組み. 日本看護学会論文集地域看護, 43 号, pp7-10. 2013
- 7) 上道久美子. 人工肛門保有者への在宅訪問看護による自己管理確立をめざした症例報告. STOMA: Wound & Continence, 21 巻 1 号, pp41-43. 2014.
- 8) 久保よう子, 大竹まり子, 赤間明子他. 筋ジストロフィー患者家族介護者のレジリエンスとその関連要因の検討. 家族看護学研究, 16 巻 2 号, pp91-100. 2010.
- 9) 川上智香, 藤原千恵子. 在宅中心静脈栄養を施行中の学童期の子どもと親のレジリエンス. 日本看護学会論文集: 小児看護, 37 号, pp173-175. 2007.
- 10) 大久保麻矢, 杉田理恵子, 藤田佳代子他. 看護学分野におけるレジリエンス研究の傾向分析 - 国内研究の動向 -. 目白大学健康科学研究, 第 5 号, pp53-59. 2012.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 菊地ひろみ 高橋奈美	4. 巻 27
2. 論文標題 医療依存度の高い在宅難病療養者のレジリエンス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 難病と在宅ケア	6. 最初と最後の頁 14 17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 菊地ひろみ 高橋奈美、御厩美登里
2. 発表標題 医療依存度の高い在宅難病療養者のレジリエンスの様相
3. 学会等名 第26回日本難病看護学会学術集会、日本難病医療ネットワーク学会（共催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊地ひろみ 高橋奈美 御厩美登里
2. 発表標題 医療依存度の高い在宅療養者の生活再構築にいたるレジリエンス
3. 学会等名 第11回日本在宅看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	御厩 美登里 (mimaya midori) (90707564)	札幌市立大学・看護学部・助教 (20105)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	高橋 奈美 (takahashi nami) (30452981)	札幌市立大学・看護学部・准教授 (20105)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関